



皆さま
今年も
ホジロバで
よろしく
お願いします
編集スタッフ一同



●撮影：20210111
福井市／変集長の隣家
除雪人：変集長
毎日除雪で腰痛です！

☆★活動報告★☆

- 12月 8日 ROBA12月例会・理事会
- 12月 17日 福井市地域交通課へ公共交通活性化
アイデア集Ⅱ進呈
- 12月 18日 羽水高校フィールドワーク中間報告会
- 12月 23日 福井県交通まちづくり課へ公共交通活性化
アイデア集Ⅱ進呈
- 1月 12日 ROBA1月例会・理事会

☆★今後の予定★☆

- 2月 9日 (火) 19:00～21:00 2月例会・理事会
- 3月 9日 (火) 19:00～21:00 3月例会・理事会
- 4月 13日 (火) 19:00～21:00 4月例会・理事会
※場所はハピリン4階 福井市ボラセン 会議室
です。

善光の一言 ②④

富山県会員、善光です。

新しい年が始まりました。昨年は“新型コロナ”に振り回され、秋頃に落ち着いて来たかと思えば再び増えて来ましたね。お正月や誕生会などのお祝い事も自宅でこじんまり「自祝」です。友人との飲み会も激減しましたが、体内アルコール消毒は欠かせず、家飲みです。感染防止と経済優先の対立は避けたいですが、難しい所ですね。

さて、公共交通は感染に対して安全か？は、よく話題に上がりますが、地域の列車・バスなら満員状態でも全員マスクをし、会話がないために、意外と安全なのだからか。飲食店も客全員が“お一人様”だったら問題ないのでしょうか。

そして日本海側は大雪になっています。公共交通は止まり、道路は大型車の立往生で機能せず、皆さん仕方なく自宅待機で除雪に精を出します。何だかイライラする大雪ですが、雪にまみれて元気にはしゃいでいる子供達を見ると、癒されたりします。・・・さて家の前の除雪で汗を流し、ビールで“アルコール消毒”しましょうか。

自祝（じしゅく）生活とアルコール消毒

江ノ電に乗ってきました。

高橋 八州太郎

今年の夏、GO TO トラベルが東京等、大都市が外れました。どこに行こうかと思ったところ、やはり電車に絡んだところがいいなということで、前から気になっていた「江ノ島電鉄」の江ノ電に乗りに行こうと思い8月16日江ノ島線に乗ってきました。江ノ電は福井鉄道と同じで路面軌道があり、併用軌道部分があります。この様子を見てみたいのと、もう一つの理由は神奈川県立美術館を見学したいということもありました。(フランスの世界的建築家のル・コルビジエの弟子の一人・坂倉準三氏の設計)

昼前に家をでて、小田急線で藤沢駅で江ノ電に乗り換えました。



江ノ島電鉄 藤沢駅(駅ビル2階のドーム型駅舎)



江ノ島電鉄 入鉄する江ノ電

鎌倉や江ノ島などの観光スポットを結ぶ江ノ島電鉄。(江ノ電)。首都圏の鉄道ながらローカル線のような雰囲気を楽しめ、レトロな車輦が海岸を走る姿や路面電車のように建物やクルマの間を走りぬけていく姿がとても絵になる路線です。

江ノ電は路面電車ではない。

日本で線路を敷いて電車や列車を走らせるには、JRや多くの私鉄が当てはまる「鉄道事業法」か路面電車やモノレールなどが当てはまる「軌道法」の許可を受ける必要があります。

併用軌道(道路上に敷かれた線路)を走る姿と小柄な車輦、街なか、建物のそばぎりぎりに走る姿をみると、路面電車だと思われがちです。でも「江ノ電」は軌道法でなく鉄道事業法に則って運営されている「鉄道」なのです。

ちなみに上野動物園のモノレールも鉄道事業法に準拠する「鉄道路線」です。鉄道事業法で許可された路線は本来、江ノ電のように「併用軌道」を走ることはできませんでした。実際、江ノ電も開業した当時は軌道法に基づいて運営される路面電車でした。

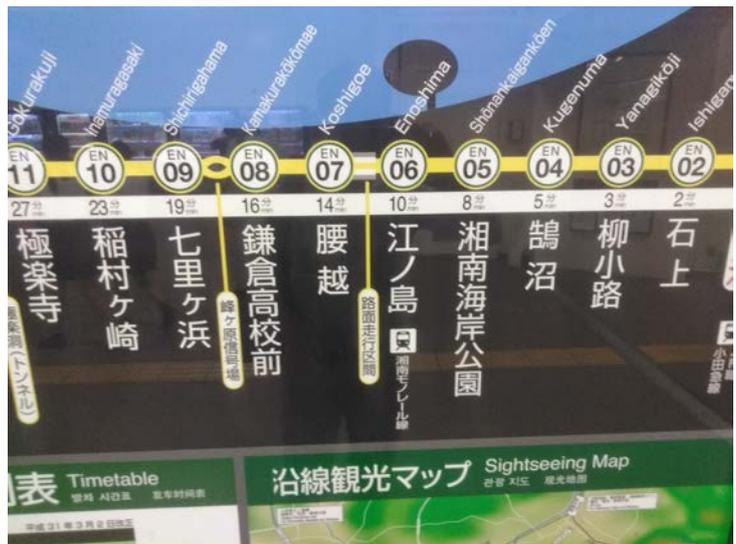
現在のような特殊な状態になった理由は、第二次世界大戦にあります。近くを走る東海道線や横須賀線が被害を受けて機能しなくなった場合に備えて「迂回路」として使えるように国策として鉄道への転換が進められたとのこと。もっとも、変更が完了したのは終戦後の1945年11月でした。そんな歴史がありました。何とも変ですね。

「江ノ電」は藤沢駅⇒鎌倉駅の15駅、総営業キロ約10km、うち路面軌道部分は4か所で約総延長980mあります。この区間が併用軌道となっている。信号場が1か所。単線なため、車輦交換場となっている。家の軒先近くを電車が走っている。クルマとの関係でみれば、クルマが電車

に気を使っている感じがします。

問題の道路との併用区間は、江ノ島駅から腰越駅までの間です。路線図にもこのように記載がありました。（右の写真を参照）

路線図とその位置を示す。



江ノ島駅から腰越駅へ向かう

腰越駅から鎌倉駅に向かう

（この右側が急こう配の場所、切れていてすみません。路線図の○印がその場所）

江ノ電とクルマの関係は、クルマの方がかなり遠慮しているかのようです。



この道路は、幹線道路でなく、通過交通でないことが幸いしています。ある記事で運転手さんの談話として「他県ナンバーのクルマをみると緊張する」とありました。

電車の中はこんな感じです。



ここで、江ノ電のウンチクについてまとめてみました。

編成は2輛編成、軌道は1,067mm(狭軌) 電気方式は直流600V(架空電車線方式)
車輦人員は100人(座席32人) 全長13,900mm 全幅2,310mm 全高3,970mm
平均

地下鉄・モノレール・新交通システムを除いて普通の乗車スペースすべてに上屋【屋根】が掛っている鉄道事業者は日本で唯一の鉄道事業者とされています。また、一般道路を自動車と同じ路面で走る鉄道としては日本で唯一の路線である。鉄道事業法に基づく「鉄道線路の道路への敷設の許可手続きを経て国交省から許可を受けております。半径28mと日本で一番急なカーブがあります。

【位置は前図参照】急曲線を通過するため、全編成が2輛1組の連接車、また走行速度は路面電車並みで平均速度約22km/h、表定速度は日中18km/h、また、道路上に鉄道信号機(江ノ島駅付近の龍国寺前)。

数年ぶりの雪だるまづくり

積雪と共に年末年始を迎え、元旦は雪だるまを作って過ごしました。せっかく3年ぶりに雪だるまを作ったので、ROBANEWSの記事に…と思い、この記事を書き始めたのは令和3年1月4日。12日に迫ったメ切ですが、ちょうど8日に良い具合に雪が降り出してきました。

仕事をしながら「3連休にROBANEWS用の雪だるまを追加で作って、記事を仕上げよう」と思ったのですが、そんな甘い考えを揺るがすほどの雪が降り積もってしまい、連日の雪かきと連休明けの緊急的なバタバタが続き、とうとう13日になってしまいました。

そんな中、連休最終日の11日に天候が落ち着いてきたので、追加の大玉を作ろうかと思いましたが、そんな気分にもなれず……。

という事で「雪だるまって何?」と思ってしまったので調べてみました。

雪だるまは江戸時代後期には既に存在していたようで、歌川広景の「江戸名所道戯 廿二御蔵前の雪」には、雪だるまが描かれていました。現代のように2段ではなく、「だるま」の形をしています。そしてその雪だるまの近くにお供え物があったことから、縁起物として作られていたと推測されている。との事です。へえ～! そうだったんだ(‘◇’)ゞ

海外では雪だるまを「snowman」と呼びますね。絵本や映画(アナ雪に出てくるオラフ等)に出てくるスノーマンは高い鼻と長い胴体で、3段が主流みたいです。ピノキオも鼻が高かったけど、「人間」に見立てているから、考え方としてはスノーマンと同じかも知れないですね。

↓↓ 日本 (雪だるま)



よし! 次は彫刻的な雪だるまを作ってみるか……♪



海外は指があったり、足があったり。人間っぽい

海外 (スノーマン) →→



作/漆崎 耕次

編集後記 …… 編集委員より一言

内田 (発行責任者)

「明けましておめでとうございます。年末年始にかけて、新型コロナウイルス感染症が急拡大している。強制的に制約をかけても、所詮各自の自覚がなければ収束は難しいと思います。また、大雪にも困ります。ただこればかりは自然相手。自覚の問題ではなさそうですね。」

林 (変集長)

「除雪で腰が痛い……」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会 (ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>